

**カカオ・チョコレート週刊ニュース 150号**

2018年1月8日発行  
株式会社立花商店 坂元麻美

**1、市況の動き：年明け反発で始まるも緩やかに続落**

		1月1日	1月2日	1月3日	1月4日	1月5日	先週最高値	先週最低値	先週比	週内価格差
ロンドン先物	3月限月	休場	1383	1374	1367	1364	1393	1366	-10	27
	5月限月	休場	1409	1398	1393	1390	1417	1390	-8	27
ニューヨーク先物	3月限月	休場	1936	1907	1905	1895	1911	1856	+25	55
	5月限月	休場	1935	1908	1908	1898	1909	1848	+26	61

**2、将来のカカオ供給不足に備えてオーストラリアのカカオ栽培に期待**

気候変動により今後30年でカカオ・チョコレート産業はカカオ豆収量減少による打撃を受けるとされる中で、豪州の農家は豪州産カカオに将来性があると期待している。世界のカカオ生産量の半分以上がアイボリーとガーナであるが、雨天続きや気温の上昇により、西アフリカ諸国において持続可能なカカオ栽培が難しい状況にある。豪州のカカオ農家の Barry Kitchen 氏は「アイボリーとガーナの2か国に生じる小さな問題は、世界全体の問題へと発展する。」と述べた。(Barry Kitchen 氏—ケアンズに拠点を置く Daintree Estates 社の執行役員)

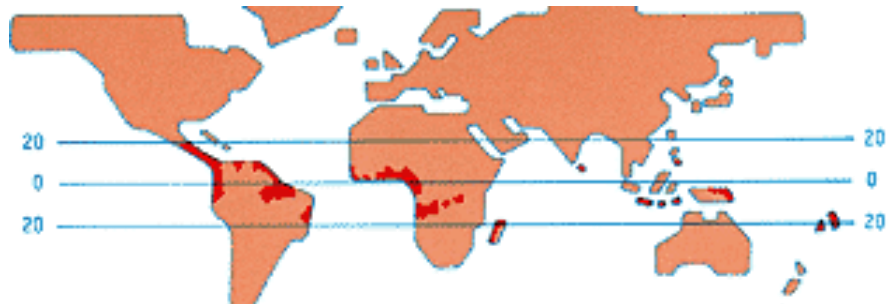
Kitchen 氏によるとケアンズはカカオの生育に必要な「継続的な雨」「温暖な気候」「日光照射をまだらにする日陰」という条件を有しているという。Daintree Estates は乾季の間は灌漑設備を利用する考えである。

またその他にも、洗練されたコンピュータープログラムを活用し、カカオの生育に適した農地を選定し土壌の成分を測定し必要な肥料をまくなどの取り組みをしている。

西アフリカやインドネシアではすでにカカオ農家に対し、持続可能な耕作の技術を提供している。

Daintree Estates もまた水が少ない状況で成育可能なカカオの木を選び育てる取り組みを行っている。

豪州産カカオは人件費の問題もあるが、農業・漁業省のスポークスマンも「ケアンズのあるクィーンズランド州はカカオにとってますます魅力的な場所になる」と述べている。ただしカカオが成育可能なエリアはケアンズのずっと北の湿った熱帯地方に限られる。



カカオが栽培される赤道の南北緯度20度地帯

**3、アイボリー：暑さとハルマッタン風に見舞われる**

暑さと乾燥気候とハルマッタン風はアイボリーのメインクロップの収量に大きくかかわる要因となる。

アイボリーの2017/2018期は10月1日から始まり、また現在西アフリカは11月から3月まで続く乾季の中にある。

農家は今の時期から天候を観察しており、ミッドクロップ(4月~9月)にどう作用するか注目している。

南部のDivo市は先週、強烈なハルマッタンに見舞われた上に雨が降らない状況にある。

農家によると状況は深刻ではなく、カカオの木に緑の葉がついてフルーツが実っているという。農家の Diallo 氏は「土壌に水分が十分にあるので3月くらいまではカカオの木の生育に問題はないだろう。」と述べた。

メインクロップが始まって初めの3か月はカカオ主産地に十分な降雨が記録された。Divo 市のカカオ農園の土壌の水分値は12月で356mmとなり指標となる337.5mmを十分に上回った。

カカオ生産地帯の西部の Soubre 市では高温の乾季が続くことを懸念している。Soubre 市の農家は「ハルマッタンは耐えられそうだが、ミッドクロップのカカオポッドの品質が良いものになる為には今月雨が降ってこないと困る。」と述べている。ロイターの調べによると Soubre 市の土壌中の水分値は447.5mmだという。

アイボリーのカカオ生産量のうち1/4を占める中西部の Daloa 市では高温気候からくる水不足の懸念があり、メインクロップにも影響が出る可能性が示唆されている。農家によるとこの先4週間も同じ天候が続いた場合は、2月以降のカカオの収量が減るとみられている。こうした天候の問題は Agboville 市、Tiassale 市、Abengourou 市でも同様であり、アイボリー全体の収量減が懸念される。



#### 4) 各国集荷状況

アイボリーコースト：

2017年10月から1月7日までの港への着荷数量は970000トン（昨年同期間着荷数量は827,500トン）

2018年1月1-7日の着荷数量は78,000トン（昨年同期間着荷数量は51,000）

- ・ CCC（アイボリーのココア統括組織）と輸出業者の契約不履行分の20,000トンが未だ入札されず余剰在庫
- ・ CCCと輸出業者間の総入札数量（＝売約数量）は143.8万トン

ガーナ：

10月13日からスタートしたガーナメインクロップの12月28日までの総集荷数量は435,307トンに到達した。

2017/2018 クロップの見通し

上記の通り、2国の生産状況は17/18クロップは非常に好調であることが大凡判明し、それに伴ってカカオ相場も下落傾向となっており、当面“弱気”の相場が続きそうだ。

チョコレート大手の Mars 社は引き続き気候変動による地球温暖化のカカオ生産への影響は不可避免的と警報を鳴らし、2050年にはカカオ豆が不足すると宣言している。一方で短期的には、需要供給のバランスから言えばやや過剰供給と

なっており、Mars 社の警報を否定する意見も欧州などから出ている。

いずれにしても、17/18 クロップシーズンは大幅な価格上昇の要素は今のところ見当たらず、弱気の市場であるという見方が大半である。

しかし、カカオ豆相場が下がれば下がるほど、現在ココアバターのレシオは上昇を続けており、カカオ豆相場の下落を調整する格好となっている。ココアパウダーの価格はそれほど影響を受けておらず、この弱気の豆相場は、チョコレート製造メーカーだけではなく、磨砕業者の利益率向上にも大きく寄与する1年になりそうだ。

〈お問い合わせ先、配信希望または停止のご連絡先〉

株式会社立花商店 東京支店 坂元

TEL 03-5785-3545 a-sakamoto@tachibana-grp.co.jp